

京セラ株式会社代表取締役会長

山口副会頭

京都経済の未来を語る

第4弾

KBS京都「京bizX」

竹内キャスター



京bizXコラボインタビューの第4弾となる今回は、今年7月の議員総会で副会頭にご就任されたばかりの山口副会頭です。京都の都市整備やまちづくり、副会頭就任にあたっての抱負など幅広いテーマで、京都経済の未来に対する思いを伺いました。

京都生まれ・京都育ちの経営者として、 京都経済の役に立ちたい

〈竹内〉

副会頭に就任されてまだ日が浅いわけですが、まずは京都経済界をどのように受け止めておられるのか、感想をお聞かせください。

〈山口〉

私自身、これまでずっと会社一本でやってきましたので、財界活動に関与するのは初めてです。商工会議所にはいるるな職種・業界の方が集まっておられるので、会頭をはじめとしてその舵取りを担う役員・議員は非常に大変だろうという印象です。

私は生まれも育ちも京都ですので、よく知った間柄の経営者も多くいます。これから微力ながら京都経済の役に立てよう頑張っていきたいと思っています。

〈竹内〉

現在の京都経済の状況についてはどのようにお考えですか？

〈山口〉

多くの外国人観光客が一年を通して京都を訪れており、インバウンドをはじめとする観光産業が非常に活発です。また、自動車や精密機器などの製造業も好調です。中小企業を中心に人手不足などの課題もありますが、全体としては上向きの傾向が続いているのではないのでしょうか。

〈竹内〉

京都は京セラをはじめ、世界規模の製造業が中心となって経済を牽引している印象ですが、今後、電子部品や精密

機器製造などの分野についてはどのような展望をお持ちですか？

〈山口〉

見通しは非常に明るいと感じています。いまやスマートフォンをはじめとする電子端末は全世界で使用されており、また、自動車も中国を中心に需要が活発です。今後、IoT技術が大きく広がることで、京都の大手企業を取り扱う半導体や各種センサーなどの需要はますます高まっていくと思っています。

住民の生活を守りながら、まちづくりを進めていかなければならない

〈竹内〉

まちづくりに対しても経済界が果たしていく役割が非常に大きいと感じますが、京都生まれ・京都育ちの山口副会頭に京都のまちづくりへの思いをお聞きしたいと思います。京都のまちは時代とともに変化してきていますが、いまま特に注目しているエリア・地域はありますか？

〈山口〉

これからの京都の発展を考えるうえで、中心地や観光地だけでなく京都全体

が盛り上がるようにしていく必要があります。弊社が立地する京都市南部エリアには、多くの企業立地を推進するなど、まだまだ活性化できる方策があると考えています。

また、梅小路公園を中心とする京都駅西側エリアにもこれまでにない新たな賑わいが生まれています。ここ数年で京都水族館や京都鉄道博物館が開業し、平成31年にはJR嵯峨野線の新駅設置も決まっています。今後ますます多くの人で賑わいが生まれ、それが周辺の商店などにも波及していけば嬉しいですね。



JRの新駅は商工会議所などからの要望がきっかけで設置が決まったという経緯があります。経済界と行政が両輪となってまちづくりに取り組み、京都の魅力をさらに高めていくことが重要だと思っています。

〈竹内〉

土地価格の高騰や景観を守るための規制などによって、企業が京都外へ出て行ってしまわないかという声もありますが、それについてどのようにお考えですか？

〈山口〉

人を集めてモノづくりを行うには、それらは確かにハンデになりうると思います。しかし、京都は昔から付加価値の高い

ものづくりを得意としてきました。研究や開発などの部門で京都の知恵を活かしながら、コストだけではない新たな価値を創造していけると考えています。

もうひとつ京都のまちづくりに関して言えば、現在、観光客の増加によって民泊施設が増え、そこに住んでいる住民の生活に大きな影響が出ています。世界的な観光都市であるベネチアやバルセロナでは、民泊施設の乱立によって住民がいなくなり、まるでテーマパークのようになってしまっています。多くのインバウンド観光客が押し寄せている京都でも、そうなることを危惧しています。地元住民の生活を守りつつ観光客を受け入れることができるような、バランスの取れたまちづくりを進めていかなければなりません。

失敗しても決して諦めない

〈竹内〉

山口副会頭ご自身についてもお聞かせください。このインタビュースリーズで毎回お聞きしていることですが、これまでのご経験の中で失敗を通して学んだことはどんなことでしょうか？

〈山口〉

まず社会人になって強烈に感じたことは、「常に余裕をもって約束する」ということの重要性です。仕事では社内外を問わず非常に多くの人との約束が集中し、この約束が守れないという事態が

起きてしまいます。例えば、事故や交通トラブルなどの不可抗力で製品の納期が遅れてしまうことがあり、取引先に迷惑をかけ悔しい思いをしたこともあり。約束する相手のことを思えば、スケジュールに余裕を持って必ず守れるようにしておくことで、信頼の高いビジネスができると思っています。

〈竹内〉

京セラという世界的企業の社長を4年間務められましたが、そこで得られたものはどのようなことでしょうか？

〈山口〉

社長になったからといって変わったことはありません。積み重ねた経験を活かしながら日々一生懸命やっていくというのを重視しています。そして、苦しい時は休みながらも、決して諦めないということが何より大事だと考えています。これはどの世代でも、人生のどのステージにおいても共通すること、社長という経験を経て実感しているところです。

〈竹内〉

これからの京都を担っていく若い経

営者・ビジネスマンに向けて、一言お願いします。

〈山口〉

若い方はこれからいろいろ経験されると思いますが、大きな失敗をしたとき、このままではダメになってしまうという状況になったとしても、決して諦めないでほしい。時にはものの見方を変えて、必要であれば少し休みながら、気持ちの整理ができたらまた前を向いて走り出す。長い人生の中で、そうやってチャレンジを続けてほしいですね。

※このインタビューの様子は、11月24日の「京bizX」で放送されます。



【京bizX】

毎週金曜日21:00～22:25 KBS 京都テレビにて放送中。